

# そらんぽへ行こう

問 四日市公害と環境未来館 (TEL 354-8065 FAX 329-5792)

## 南極ってどんなところ？

南極大陸は「氷の大陸」と呼ばれ、氷の厚さは一番厚い所で4,000mもあります。私たちの日常からは遠く離れた場所ですが、南極は地球全体の環境変化を映し出す「地球の健康度をはかるバロメーター」とも言われ、気候変動や大気の状態を知るうえで欠かせない存在です。

四日市公害と環境未来館では、3月20日(祝)にそらんぽ1階講座室で、講演会「南極ってどんなところ？～南極地域観測隊の長田先生に聞いてみよう～」を開催します。

講師は、第27次(1986年)・第45次(2004年)の南極地域観測隊として、南極大陸で雪



講師の長田和雄さん



南極観測船「しらせ」



南極で調査をする  
長田さん(左)

氷や大気中の微粒子の調査などに従事した長田和雄さんです。

現在は、名古屋大学大学院環境学研究科の教授として黄砂や越境汚染、大気エアロゾルなどに関する研究・教育に取り組んでいます。

講演会では、南極のふしぎで美しい自然、昭和基地での生活、楽しい思い出やハプニング、また南極で調査する中で感じた地球環境の変化などについて、写真などを交えながらお話ししていただきます。壮大な南極の世界から、地球環境について考えてみませんか。



申し込みフォーム

# 文化財さんぽ

問 文化課 (TEL 354-8238 FAX 354-4873)

## 杖衝坂はどこにある？

内部地区の采女町にある杖衝坂のことは、皆さんご存じでしょうか。倭建命が、東征からの帰り道、疲れきって脚が三重に曲がったようだと嘆きながら登った故事が残る急坂です。ところが、「杖衝坂」とされる場所は岐阜県海津市にもあります。

「古事記」には、倭建命は伊吹山(岐阜県・滋賀県)から尾津(桑名市多度町)に向かう途中の坂で杖を使ったと記されています。道順としては、海津市に杖衝坂があるのが自然です。しかし、伊勢神宮外宮の神官である度



1929年に県が建てた杖衝坂の石碑(采女町)

会延佳は、江戸時代前期に著した「鰐頭古事記」で、「伊勢の国に桑名郡から入るときは、尾津、三重(采女町)、杖衝、能褒野(龜山市)というのが現在の順路であると考える」と注釈しました。後に、郷土史家の安岡親毅も「勢陽五鈴遺響」でこの説を支持しています。

果たして、倭建命が杖を突いて歩いたとされる坂はどこにあるのでしょうか。もしかすると、今まで知られていない所かもしれません。あなたも杖衝坂を訪ねて、思案を巡らせてみませんか。